

2025



東京藝術大学

SCULPTURE



はじめに

INTRODUCTION

130年以上前、東京美術学校が設置された時から、この場所ではひたすら「彫刻とは何か?」を日々問い続けてきました。変化し続ける社会情勢や地球環境に翻弄されながら、私たちの表現が変わらず導かれているのはこの問いとの接続です。原始から現代までの射程で彫刻を考察しながら、社会と彫刻を結び、伝統を継承し、革新を生み出す存在の出現を待っています。果たして彫刻という芸術に携わることが、私たちの未来や社会にとって有効であるのか、これから彫刻表現の可能性を一緒に探求しましょう。

沿革

OVERVIEW

彫刻科の歴史は、1887(明治20)年、専修科に彫刻科(木彫)が置かれたことに始まります。その後、1899(明治32)年に塑造科が増設され、1949(昭和24)年、学制改革により東京藝術大学となると改めて彫刻科として再出発しました。

現在の上野校地の彫刻棟は1971(昭和46)年に施工され、1977(昭和52)年には博士後期課程を開設。現在、大学院生の一部は取手校地にて制作活動を展開しています。

彫刻科では、幅広い造形の研究に重点をおき、過去の美術の歴史や日本美術の伝統を踏まえながら世界に視野を広げ将来の美術を展望できるような豊かな感性を持つ人材の養成が重要であると考えています。また、将来作家として独創性あふれる自由な創作活動が行え、美術にかかわる諸分野での指導的役割が果たせるような人材の養成に努めています。

アドミッションポリシー

ADMISSION POLICY

〈学部〉現代の新しい感性と彫刻の創造に資する多様な能力の人材確保のため、入学者選抜方針として造形力、構成力、表現力など美術全般の基礎能力、及び彫刻表現能力の審査を行い、学力試験の結果も含め幅広く総合的に判断し、感性豊かな人材を求めています。

〈大学院〉創造、表現、研究能力を養い、さらには自立して創作、研究活動を行うに必要な能力を備えた彫刻家、研究者の育成を目指しています。学部段階で修得した基礎能力や技術を基に、より専門的な彫刻表現の追求を志す人材を求めています。

〈国際交流〉国際交流協定校を中心にアジア諸国、西欧諸国との交流を積極的に実施しています。学生の海外留学に対して支援を行うと共に、毎年数名の留学生、研究員を受け入れています。

カリキュラムポリシー

CURRICULUM POLICY

〈学部〉基礎的な造形技術を習得し発展させながら、既成の領域にとらわれることなく、それぞれの学生の資質を生かす創作研究を行います。古美術研修や彫刻論などの講義を通し、豊かな教養を身につけ、現代における彫刻のありかたを探究します。最終学年には彫刻作品を制作し、卒業制作展で公開します。

〈修士〉彫刻表現を通して、広く社会に貢献しようとする高い志を持つ人材を育成します。学部で習得した基礎能力や技術を基に、広い視野から、より積極的、専門的な彫刻の表現、研究を行います。最終学年の修了制作展で成果を公開します。

〈博士〉修士学位取得者がさらに専門性の高い研究を行います。制作、研究、また学内外における発表や地域と連携したプロジェクト等、実践的な研究活動をもとに、彫刻作品、論文を作成します。最終学年に博士審査展にて研究成果を発表します。

指導教員一覧

STAFF

教授・准教授	大竹利絵子 / 今野健太 / 大巻伸嗣 / 小谷元彦 原 真一 / 西尾康之 / 森 淳一
客員教授	青木野枝
テクニカルインストラクター	石川洋樹 / 森 靖 / 浅野井春奈 村岡佑樹 / 井原宏蒨
助教	秋吉 怜
教育研究助手	柿坪満実子 / 柴田真央 / 木藤遼太 / 齋藤圭一郎 広瀬里美 / 菊地寅祐 / 野口真美子 / 亀田満紀史



1・2年次

CURRICULUM
YEAR 1 & 2

1、2年次では、基礎過程として塑造をはじめ、木・石・テラコッタ・金属と、彫刻において世界的に広く使われてきた素材の扱い方と基礎的な造形法を学びます。2年次後期では自ら素材を選択し、発展させた作品を制作します。



A	A	A
B		C
B	B	B

- A. 木彫実習
- B. 石彫実習
- C. 金属実習

- C. 金属実習
- D. テラコッタ実習
- E. 塑造実習

C		D
C	D	D
E	E	E

カリキュラム

3 年次

CURRICULUM
YEAR 3

3 年次前期は、彫刻表現のコンセプトを学んだり、空間への意識を高めたり、表現の多様性を学びます。後期からは3つの講座と各素材及び専門領域に分かれ、指導教員の元に研究を深めます。また、古美術研究旅行を通して日本彫刻の歴史を体験します。



A	B
	B
C	C

- A. 概念彫刻Ⅰーレディメイドー
- B. 概念彫刻Ⅱーアクションー
- C. 概念彫刻Ⅲーインスタレーションー

- A. 塑造制作風景
- B. 石彫制作風景
- C. 金属制作風景
- D. 木彫制作風景

A	B	B
A	D	
C	C	D

4 年 次

CURRICULUM
YEAR 4

4年次ではそれまで学んできた集大成として、学生が主体的にテーマを見つけ卒業制作に取り組み、一般公開となる卒業制作展へ臨みます。



A	B
C	D

- A. 水上修人《4羽のメジロのための棺桶》素材:ミクストメディア
B. 鹿田和可子《憧れはきっと少女の必須アイテム》素材:木、ビーズ、色鉛筆
C. 遠山 蘭《愛すること、憎むこと》素材:ステンレス、クロッキー紙、木炭
D. 大木 百《淋しいおさかな》素材:ジェスモナイト、ガラス、モニター

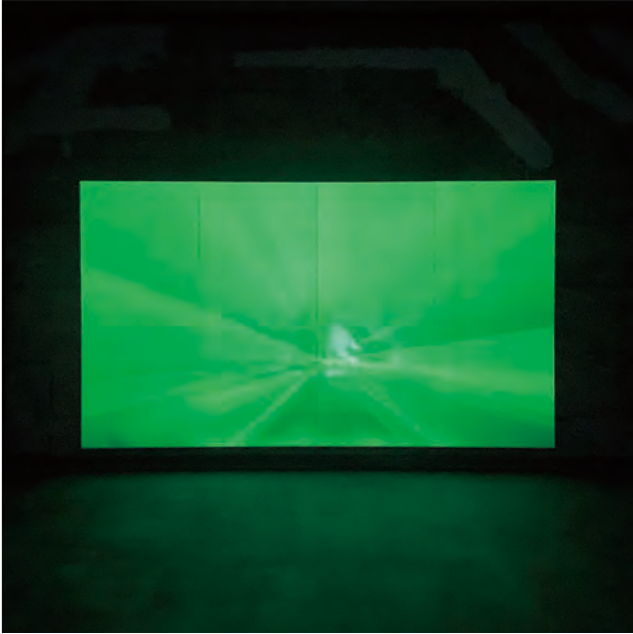
- E. 嶋田一輝《在る為に》素材:セラミック、含浸
F. 野川楓真《exist》素材:ジェスモナイト、アクリル絵の具、ジェルメディウム
G. 西田美弥子《いつかまた触れられたら》素材:樟
H. 村上佳穂《memoriarium》素材:大理石

E	F
G	H

修士課程

CURRICULUM
POSTGRADUATE

大学院修士課程では、より集中して専門的な創作研究をすることができます。
修了制作展では大学美術館・彫刻棟を会場として、より専門性の高い作品発表を行います。



A	B
C	D
	E

- A. 亀田満紀史《とおりみち》素材:大理石
B. 野口真美子《象をのむ》素材:漆、身の回りの不要物、金属粉、澱粉糊
C. 佐々木玲奈《みつめるもの》素材:樟
D. 徳竹玲音《デイヴィッド》素材:鉄
E. 茂木淳史《都市の衛星》素材:映像、蓄光シート、木

- F. 中西凜《仔羊のこと。》素材:チョコレート・ホワイトチョコレート、コナッツバター、水あめ、ステンレス
G. 横手太紀 左:《I'll eat you up,I love you so (インスタレーションより一部)》素材:木、木屑
右:《星のいるところ/Where the Stars Are (インスタレーションより一部)》素材:LEDディスプレイ、映像、埃
H. 菊地寅祐《steam》素材:樟
I. 上野聖人《The parson who represents-JHQ》素材:樟木、岩綿具、膠、墨、ポンド墨、印泥、和紙、モルタル

F	G
H	I

彫刻科の設備

FACILITIES
DEPARTMENT OF
SCULPTURE

彫刻科には伝統的に扱われてきた素材を専門的に扱うための研究室と設備があり、各研究室教員の指導のもと、学生が自由に、かつ主体的に作品制作に臨むことができます。また、取手校地では、主に大学院生以上の学生が制作し、より高度で専門的な加工を可能とする共通工房を使用することができます。

石彫
—
STONE



1



2



3

1. 石彫実習室 2. フォークリフト 3. 竈 (ふいご)

木彫
—
WOOD



1



2



3

1. 木彫実習室 2. バンドソー、自動カンナ盤ほか 3. 大鋸

金属
—
METAL



1



2



3

1. シャーリング 2. フライス盤 3. 金属実習室

塑造
—
CLAY



1



2



3

1. 窯 2. ポリ取り、塗装室 3. 3階アトリエ

取手校地
—
TORIDE



1



2



3

1. 取手石材工房 2. 石材切断用丸ノコ 3. 取手共通工房外観

その他の彫刻科による活動

彫刻論

EXTRACURRICULAR
ACTIVITIES:
ON SCULPTURE

彫刻科では、2・3年生を主な対象とする「彫刻論」という授業を開設しています。この授業では彫刻科教員だけでなく、現在活躍されている様々な作家や批評家、ギャラリスト、キュレーターなどを学外から招聘し、時にはゲスト講師と学生が意見を交わしながらのレクチャーを行うことで、彫刻や美術への視野をより広く、深くすることができます。

彫刻論 招待講師一覧	
1979	佐藤忠良
	本間紀男
	井上武吉
	建畠覚造
	土谷 武
	村井崑雄
1980	佐藤忠良
	向井良吉
	建畠覚造
	江口 週
	加藤昭男
1981	湯原和夫
	小田 褰
	桑原住雄
	細井良雄
1982	大平隆洋
	矢内原伊作
	篠田守男
	掛井五郎
	矢橋謙一郎
	細井良雄
	原 武典
	長澤市郎
1983	三木多聞
	若林 奮
	木村賢太郎
	柳原義達
	速水史朗
	小野寺久幸
1984	堀口泰造
	鈴木 実
	伊藤公象
	西岡常一
1985	菅原二郎
	小清水 漸
	酒井忠康
	長谷川三郎
	小野寺久幸
	西岡常一
1986	福田徳樹
	堀内正和

※年数は年度表記です

1986	菊畑茂久馬
	清水九兵衛（六兵衛）
	安齊重男
	池田宗弘
1987	戸谷成雄
	大木達美
	菅木志雄
	島根 紹
1988	樋口正一郎
	川島 清
	舟越 桂
	橋本裕臣
1989	中瀬康志
	藤田昭子
	酒井忠康
1990	富松孝侑
	宮脇愛子
	石井厚生
	北郷 悟
1991	飯田善國
	岡本敦生
	谷 新
	土屋公雄
	日野耕之祐
1992	村岡三郎
	杉山惣二
	柳 幸典
	前川義春
	高島直之
1993	黒川員匡
	建畠 哲
	池内 務
	橋本夏夫
	安田 侃
1994	小畠廣志
	萬木康博
	田中信太郎
	川俣 正
	河口龍夫
	戸津圭之介
1995	伊藤 誠
	保田春彦

1995	多和圭三
	関根伸夫
	島田勝吾
1996	高岡典男
	蔡 國強
	三輪龍作
	舟越 桂
	本江邦夫
	小野寺久幸
1997	千葉成夫
	川越 悟
	柳 健司
	安藤栄作
	一色邦彦
	小野寺久幸
1998	島田勝吾
	鷹見明彦
	倉林 靖
1999	小泉晋弥
	田窪恭治
	須田悦弘
	村上 隆
	上遠野 敏
	六角鬼丈
	小野寺久幸
	吾妻兼治郎
2000	松田誠一郎
	吾妻兼治郎
	小山登美夫
	松村壽雄
	青木野枝
	谷 新
	菱山裕子
	吉水 浩
2001	長谷京治
	千田敬一
	奈良美智
	南條史生
	遠藤利克
	池田宗弘
2002	中村真木
	袴田京太朗

2002	石松豊秋
	是枝 開
	水上嘉久
	保田井智之
2003	秋山七穂子
	西 雅秋
	渡辺英司
	小谷元彦
	津田亜紀子
	西尾康之
	市川武史
2004	小林泰彦
	水沢 勉
	村井進吾
	大巻伸嗣
	ヤノベケンジ
	藤原 徹
2005	井上雅之
	小杉拓也
	三輪途道(上原三千代)
	チャールズ・ウォーゼン
	谷川 渥
	中村哲也
2006	山本和弘
	田中三蔵
	椿 昇
	北澤憲昭
	古郡 弘
	前田哲明
2007	原口典之
	森 淳一
	棚田康司
	小泉俊己
	保井智貴
	三沢厚彦
2008	土屋仁応
	三田晴夫
	北川宏人
	藤井 匡
	金井 直
	名和晃平
2009	佐藤好彦

2009	金氏徹平
	富井大裕
	城戸孝充
	南嶌 宏
	河口龍夫
2010	廣瀬敏史
	天野一夫
	石川健次
	鴻池朋子
	岩崎貴宏
	高畑一彰
2011	樋口明宏
	逢坂恵理子
2012	束 芋
	李 美那
	棚田康司
	大竹利絵子
2013	丸山富之
	佐藤 忠
	松井紫朗
	拝戸雅彦
2014	中島吏英
	中野仁詞
	鈴木友昌
2015	瀧 徹
	田中 毅
	出原 均
2016	フロリアン・クラール
	池島康輔
	伊東敏光
	西野康造
2017	安藤榮作
	市川 平
	手塚愛子
	中嶋大道
2018	市原研太郎
	岡部あおみ
	田中圭介
	青野セクウォイア
2019	森北 伸
	菅原一剛
	飯田竜太

2019	西川勝人
2020	七瀬綾乃
	森 靖
	椿 昇
	小田原のどか
2021	二藤建人
	小畑多丘
	長谷川さち
	鷲田めるろ
	高見直宏
	木本 諒
2022	和田礼治郎
	松本 涼
	竹内孝和
	加藤 泉
2023	サエボーグ
	AKI INOMATA
	藤田一人
	岡田 靖
	山内祥太
2024	柳原絵夢
	コルネオ・ホセ・セサル
	奈良美智
	黒川弘毅
	鈴木ヒラク
	目 [mé]
特別講義 招待講師一覧	
1986	斎藤泰嘉
	ミッシェル・ムラー
1987	リチャード・ディーコン
	安齊重男
	フィリップ・キング
1995	アンソニー・カロ
1998	ダニ・カラヴァン
1999	全 峻
2001	A. ゴームリー
2002	ジュリアーノ・ヴァンジ
2013	シガリット・ランダウ
2014	水沢 勉
	ジュゼッペ・ペノーネ
2017	岩崎貴弘
2019	塩田千春

その他の彫刻科による活動

1997

企画展示

EXTRACURRICULAR ACTIVITIES: EXHIBITIONS

彫刻科や研究室の企画する展覧会やアートプロジェクトも行われてきました。近年では、大学院生が主体となって企画するものもあり、より社会と接続し制作・研究を深めることができる機会となっています。企画展は1997年より東京藝術大学大学美術館陳列館にて、彫刻科が企画している彫刻展です。彫刻科教員・スタッフ他、学外の招待作家も出品します。

企画展示 | 展示概要一覧

第1回	空間の変容 ―彫刻のポテンシャル―
会期	1997年11月10日(月)―11月28日(金)
企画	林 武史
出展作家	小谷元彦 / 棚田康司 / 虎尾 裕 / 林 武史 / 深井 隆 / 森 淳一

第2回	彫刻 ―具象表現の解体と構築―
会期	1999年10月21日(木)―11月10日(日)
企画	北郷 悟
出展作家	磯崎有輔 / 大巻伸嗣 / 北郷 悟 / 黒川弘毅 / 棚田康司 / 津田亜紀子 / 鳥原正敏 / 藤田隆康 / 舟越 桂 / 三沢厚彦

第3回	垂直の時間 彫刻 ―過去・現在・未来―
会期	2001年10月11日(木)―10月28日(日)
企画	深井 隆
出展作家	磯崎有輔 / 岡田晃典 / 清水 淳 / 須田悦弘 / 澄川喜一 / 高島 啓 / 竹内紋子 / 奈良美智 / 深井 隆 / 三沢厚彦 / 米林雄一

第4回	彫刻の身体
会期	2003年7月1日(火)―7月21日(月・祝)
企画	林 武史
出展作家	林 武史 / 河合勇作 / 棚田康司 / 森 淳一 / 原 真一 / 市川武史 / 渡辺英司 + 高木 哲

第5回	スキノデリック ―彫刻の表層―
会期	2006年1月6日(金)―1月22日(日)
企画	北郷 悟
出展作家	伊藤 誠 / 奥田真澄 / 北郷 悟 / 清水 淳 / 高見直宏 / 塚本悦雄 / 中村哲也 / 藤原彩人 / 吉賀 伸 / 古川 聖

第6回	物語の彫刻
会期	2007年11月16日(金)―12月2日(日)
企画	深井 隆
出展作家	一井弘和 / 大竹利絵子 / 小谷元彦 / 小俣英彦 / 小泉俊己 / 清水 淳 / 滝上 優 / 竹内智美 / 田中圭介 / 棚田康司 / 津田亜紀子 / 原 真一 / 深井 隆

第7回	彫刻 ―労働と不意打ち―
会期	2009年8月8日(土)―8月23日(日)
企画	原 真一
出展作家	大竹利絵子 / 小俣英彦 / 今野健太 / 下川慎六 / 西尾康之 / 原 真一 / 深谷直之 / 森 靖

特別企画	彫刻の時間 ―継承と展開―
会期	2011年10月7日(金)―11月6日(日)
企画	深井 隆
出展作家	〈近代以前〉快慶 / 肥後别当定慶 / 円空 / 正直 / 舟月 / 森川杜園 〈近代〉旭 玉山 / 高村光雲 / 竹内久一 / 山田鬼斎 / 高村光太郎 / 荻原碌山 / 朝倉文夫 / 石川光明 / 中原悌二郎 / 佐藤朝山 / 石井鶴三 / 橋本平八 / 平櫛田中 〈現代〉澄川喜一 / 手塚登久夫 / 山本正道 / 米林雄一 / 木戸 修 / 深井 隆 / 北郷 悟 / 林 武史 / 原 真一 / 森 淳一 / 大巻伸嗣 / 増井岳人

第8回	物質と彫刻 ―近代のアポリアと形見なるもの―
会期	2013年4月2日(火)―4月21日(日)
企画	林 武史
出展作家	角田 優 / 佐々木速人 / 名倉達了 / 名和晃平 / 袴田京太郎 / 林 武史 / 原口典之 / 深井 隆 / Mrs.Yuki / 宮原嵩広 / 森 靖

第9回	彫刻 ―気概と意外―
会期	2016年9月28日(水)―10月10日(月・祝)
企画	原 真一
出展作家	池島康輔 / 井田大介 / 伊東敏光 / 井原宏路 / 大竹利絵子 / 今野健太 / 高見直宏 / 原 真一

第10回	時間 / 彫刻 ―時をかけるかたち―
会期	2019年5月20日(月)―6月2日(日)
企画	林 武史
出展作家	大巻伸嗣 / 大森記詩 / 川島大幸 / 北山翔一 / 小塚照己 / 篠田太郎 / 鈴木弦人 / 富井大裕 / 林 武史

第11回	PUBLIC DEVICE ―彫刻の象徴性と恒久性―
会期	2020年12月11日(金)―12月25日(金)
企画	小谷元彦 / 森 淳一
キュレーター	小谷元彦
共同キュレーター	小田原のどか
展覧会サポート	松下徹 (サイドコア)
出展作家	会田 誠 / 青木野枝 / 井田大介 / 大森記詩 / 小谷元彦 / 小田原のどか / 笠原恵実子 / カタルシスの岸辺 / サイドコア / 島田清夏 / 高嶺 格 / 椿 昇 / 戸谷成雄 / 豊嶋康子 / 西野 達 / 林 千歩 / 森 淳一 / 菊池一雄 / 北村西望 / 本郷 新



東京藝術大学大学美術館陳列館

1 雨田まなつさん

彫刻科 学部4年生（2025年現在）



《Dilly Dally》素材：ミクストメディア

入学動機

入学の動機を話す前に私が彫刻をはじめのきっかけを少し述べます。高校生の頃に寺山修司の戯曲と出会ったことがその始まりでした。実はそれらは全て人が演じているのですが、なんだか一人一人が彫刻のように魅力的な形をして立っているのです。その舞台は妖艶で私に目を閉じることさえ忘れるほどの衝撃を与え、そして同時に空間そのものを作り出すことへの興味をそそりました。

今改めて思うと、わたしにとって彫刻の持っているあの「臨場感」は絵では味わえない、この手で創り出したことをリアルに実感できるものでした。

このような経験を得て、彫刻を本格的に勉強したいと考え、大学へ行くことを決めたのです。本学校は美術大学には珍しく上野というにぎやかな土地に構えています。隣には広大な公園や動物園、美術館があり、少し足を伸ばせばおしゃれな谷中の街や、まるで異国のようなアメ横商店街もあります。

私が学校選びで最も重視したのは「人」です。熱心でユニークなお友だちや先生方に会えることができ、彼らとの関わりがわたしの制作に対する野心を一層掻き立ててくれるのです。

――

現在の活動

現在は主に楠を使った制作をしています。もちろん他の素材も使用しますが、木はもともとそこに「大きな量」として存在しているので気配を捉えやすいです。それに、意外とその「大きな量」を動かしやすいのです。

わたしが作品を制作する時に楽しいと思うところは「思い通りに行かないと感じるとき」です。私の制作の中では自分の思惑以上の予期せぬ出来事が頻発します。さまざま

まなことが作用して作品が移り変わっていくようなところはすごく面白いと感じます。それらは偶然であることもあれば、私自身が育ててきた結果として現れることもあります。

わたしは日々の空想や出来事を、落書き的創造を通して表現しています。彫刻を勉強していくときに私が大事にしていることは、特別なことよりも「日々の生活」です。それは難しい意味ではなく、もっと単純にただ暮らすことです。それをどれだけ楽しんでドキドキ出来るかが重要です。サークルに入ってみる、うたをうたってみる、知らない土地に行ってみる、人と話してみる、どんな些細なことでも、自ら彫刻以外の集団に問い合わせてみることで、何か変わっていくような感覚があります。



《歩けぬ樹木の閑話》素材：漆

2 岡田 俊さん

彫刻専攻 修士2年生（2025年現在）



入学動機

高校2年生、大学受験を控え将来の進路に悩んでいた際に、友人からの薦めで美術予備校の体験授業に参加しました。体験授業ではデッサンを行ったのですが、物を写し画面の中で表現する事がたまたま楽しく、その日を境に、私は美術の世界に強く惹かれていきました。

受験に向けて本格的に制作に取り組むうちに、ただ絵を描くというだけでなく、「自分の手で何かを生み出す」ことそのものに深い喜びを感じるようになりました。中でも面白さを感じたのは、平面ではなく立体表現でした。触れることができる実在感、空間との関係性、素材のもつ質感――そうした要素に魅せられ、自然と彫刻へと関心を持つようになっていきました。東京藝術大学の卒業制作展で彫刻科の作品を初めて目にしたとき、その自由な発想とエネルギーに満ちた造形表現に圧倒され、自分もこの場で表現を深めたいと強く思い、彫刻科を志望する決意を固めました。

――

現在の活動

藝大入学後は山岳部に所属し、活動出来る

フィールドが大きく広がりました。都会で生まれ育った自分にとって、山や自然の中で過ごす体験は新鮮で、自身の表現の核となる「地球と関わること」について考えるきっかけとなりました。現在制作している作品は、そうした自然の中で得た身体感覚や記憶、そして自然と人間との関係性をテーマにしています。

学部卒業制作では、モンゴルへの旅を通して感じた人と動物の関係性をテーマに作品制作を行いました。モンゴルでは広大な草原を舞台に暮らす遊牧民の生活に触れ、彼らが動物と共に生きる姿に深い感銘を受けました。帰国後、自分自身の生活環境や社会との関係を改めて見つめ直すなかで、人と動物との距離、そして命の価値について深く考えるようになりました。

牛革を用いて牛一頭分の表面積を再構成するようにジャケットを縫い上げ、生命から生み出されたモノの過程を可視化しています。また、命が物質へと変わり、私たちの日常の中にどのように存在しているのかという問いを込めています。

私たちは、人間が作り上げた人工

的な社会の中で生きています。しかしだからこそ、自然のサイクルや命の本質に意識的に目を向ける必要があると私は感じています。私の創作の根底には、地球と人間との関係性、そしてそのあいだに潜む歪みや美しさを見つめ、それを形にするという強い動機があります。今後も表現を通して、人間と地球とのつながりを探求し続けていきたいと考えています。



《On the road》素材：牛革ジャケット、牛蹄、ミクストメディア

卒業後の進路

CAREERS

学部卒業生の多くは、より専門的な研究を続けるために大学院美術研究科へ進学します。中には修士課程を修了後さらに、博士後期課程へ進む者もいます。また、彫刻科での経験を生かし一般企業に就職する学生も増えています。国公立・私立大学、高等学校・中学校の教員も主な進路としてあげられます。

近年の主な就職先

(株) 息吹工藝社
(株) IMAGICA GEEQ
エクステージ(株)
(株) カブコン
(株) 京都科学
工房琉白
(株) サイバーエージェント
(株) シネ・フォーカス

(株) スクウェア・エニックス
(株) ソニー・インタラクティブエンタテインメント
大日本印刷(株)
(株) TBSテレビ
東京国立博物館
日産自動車(株)
日本科学未来館
(株) 俄 NIWAKA

任天堂(株)
(株) 博報堂
(株) ビーファクトリー
(株) フィラメント
(株) 平成建設
(株) ポリフォニー・デジタル
本田技研工業(株)
(株) ミキモト
Wrong Inc. ほか

教育機関

――
〈国立・公立大学〉
愛知県立芸術大学
秋田公立美術大学
沖縄県立芸術大学
金沢美術工芸大学
静岡大学
都留文科大学
富山大学

広島市立大学
三重大学 ほか
――
〈私立大学〉
京都芸術大学
女子美術大学
多摩美術大学
東京造形大学
武蔵野美術大学 ほか

五十音順

編集・発行：東京藝術大学美術学部 彫刻科
〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8
パンフレットに掲載されている情報は2025年5月のものです。
図版および文章の無断転載を禁じます。
©2025 Department of Sculpture, Tokyo University of the Arts

